

Salama! 2024年もあっという間に12月になりましたね。酷暑が続いた夏が過ぎたと思えば、寒い日が続いたり、感染症が流行ったりしているようですが…いかがお過ごしですか? 3年生は三者面談を経て、自分の進路に向けて、とにかく**健康 (Salama) 第一**で乗り越えていってほしいと思います。

マダガスカルは夏(雨季)に入りました。朝晩は冷え込みますが、日中は暑く、夕方~夜にかけて激しい雨が降ることが多いです。マダガスカルにいて、皆さんと掃除をし、校舎をきれいに保つ努力をしていたことを思い出します。なぜって、マダガスカルはゴミの・衛生面の問題を、たくさん抱えているからです!

●いたるところに、ゴミの山。

これは首都アンタナナリボにある「ゴミ置き場」の様子。写真の中央に、犬がいるの、わかりますか? 野犬はゴミの山の中から食べ物をあさっています。ここで一時的に置かれた(?) ゴミは、のちに収集場に運搬されるのですが…。



「ゴミ置き場」にゴミを置く分にはまだよいのですが、

「ゴミのポイ捨て」も当たり前です。道に唾を吐いたり、飲んでいたジュースがなくなればペットボトルを放ったり、お菓子がなくなれば袋も放る。食べていたバナナやライチの殻も、道端にポイ!

金銭になりそうなものを(金属片や電子回路、空き瓶など、何でも)探している人もいます。ゴミの山は悪臭を放ち、ガラス片などのとがったもの、産業廃棄物なども混ざっていることが多いので、きわめて危険です。(それでも裸足で作業している人がとても多い!)

JICA(国際協力機構)の二国間連携事業の一つとして、ゴミ処理に関するプロジェクトの導入の話もありますが…国家事業プロジェクトはもとより、「ポイ捨てをしない」「環境をきれいにする」など、一人一人の意識を変えていくことはとても大事だと思います。私はマダガスカルでは小学校教育に関わる仕事をしているので、みんなが安全で健康に過ごせる街づくりのために、何か取り組みたいと思っていますが…この環境が「当たり前」になっている一人一人の意識と行動を変えるのは、なかなか難しそうです。



(上) 道端の側溝にたまるゴミ。もはや『ドラえもん』の漫画くらいでしか見かけない「ドブ」もマダガスカルにはたくさんあります。



(右) ゴミの山で遊ぶ子どもたち。(首都)

●しかし、日本も例外ではない。

「いやあ、日本はキレイで良かったねえ!」と思っていますか? 日本の産業廃棄物はいったいどこに? そして、日本も「昔からキレイ」だったのでしょか? これについては次号で少し触れたいと思います!

●マダガスカル語講座!



ヴェーろーま
Veloma! またね!

ブログもぜひ見てください!

「まちよの宅急便 de マダガスカル」

<http://machomadagascar.exblog.jp>

